

2006年12月13日

BMW 3シリーズのテレビCM「クルミ割りカラス篇」が、  
第15回ブランド・オブ・ザ・イヤー2006にて輸入車で唯一、  
売上に貢献し続けた<定番ブランド>に選出される!!

ビー・エム・ダブリュー株式会社(本社:千葉県美浜区中瀬1-10-2、代表取締役:ヘスス・コルドバ)は、同社の主力モデルの一つ、BMW 3シリーズ用に制作したテレビCMが、第15回ブランド・オブ・ザ・イヤー2006にて、輸入車で唯一、「Winner of Branding GP」部門の売上に貢献し続けた<定番ブランド>の計12傑のうちの1つに選ばれたと発表しました。

第15回ブランド・オブ・ザ・イヤー2006は、CM総合研究所・CM DATABANK・月刊CM INDEXが主催するもので、2005年11月から2006年10月までに東京キー5局で放映されたテレビCM全9,616銘柄、2,020社から選出されます。

「Winner of Branding GP」部門の売上に貢献し続けた<定番ブランド>は、情報、商品、流通の全てにおいて消費者マインド獲得に成功したブランドに対して認定・表彰するもので、BMW 3シリーズが輸入車で唯一、全12銘柄の一つに選ばれました。(国産メーカーを含めても全自動車メーカーの中で2銘柄のみの選出)

BMW 3シリーズ用テレビCM「クルミ割りカラス篇」は、BMWジャパンのマーケティング・ディビジョンが、日本市場向けに事前調査を実施して制作した、日本独自CMです。

#### CMストーリー

香気漂う冷涼な空気を切り裂いて、山間のヘヤピンカーブをダイナミックに駆け上がる一台のBMW 3シリーズを、上空を旋回する一羽のカラスがこのシーンを目撃するところからストーリーは始まります。カラスは、クルミの殻を割らせようとBMW 3シリーズに先回りして、とあるS字カーブにクルミをひとつ置きます。ハイスピードでコーナーを次々にクリアするドライバーは路上のクルミに気づくと、余裕の笑みを浮かべながらクイックなステアリングさばきでさらりとクルミをかわします。心地よいエキゾーストノートを響かせ走り去るBMW 3シリーズと羽をばたつかせて悔しがるカラスという、対照的な構図が痛快に描かれるテレビ広告です。

なお、本件についてはCM DATABANK / CM総合研究所 / 月刊CM INDEXにより、12月12日(火)に報道発表を行っておりますので、ご留意ください。

#### ビー・エム・ダブリュー株式会社について(2006年10月1日現在)

ビー・エム・ダブリュー株式会社は、ドイツ・バイエルン州ミュンヘン市に本社を置く、プレミアム・ブランドに特化した、グローバルな自動車メーカーである BMW AG (Bayerische Motoren Werke Aktiengesellschaft)の100%出資子会社で、欧州自動車メーカー初の全額出資子会社として、1981年に日本に設立されました。以来ビー・エム・ダブリュー株式会社は、当時は珍しかった専売店網の構築に始まり、低金利ローンや認定中古車制度など、さまざまな業界標準を築き、製品、サービス、顧客満足の分野において常に輸入車業界をリードしてきました。ビー・エム・ダブリュー株式会社は全国の279(BMW: 187、MINI: 92)の正規ディーラー・ショールームを通じてBMWとMINI製品の販売とアフターセールスを提供しています。また、BMW Motorrad(オートバイ)の製品・サービスは、自動車同様、専売店ネットワークを通して提供しています。

ビー・エム・ダブリュー株式会社は、2005年には同社史上最高となる58,582台(BMW: 44,980台、MINI: 13,602台)の新車を販売しました。また、BMW Motorradは、2,681台を全国のお客様にお届けしています。

ビー・エム・ダブリュー株式会社は現在285人の従業員を雇用しており、関連子会社に金融サービスを提供するビー・エム・ダブリュー・ジャパン・ファイナンス株式会社と、直営販社であるビー・エム・ダブリュー東京株式会社を有しています。